



グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダによる教え

寛大でありなさい

インドのシッダ・ヨーガ・サンガムのためのサツツァング

2020年4月1日水曜日

バガヴァーン・ニッテャーナンダ・テンプル

シュブ・ラーマナヴァミー！ シュブ・ヴァサント・ナヴァラトゥリー！ シュブ・「ビー・イン・ザ・ テンプル」！ それが、このサツツァングのタイトルです。アートマ・マンディル、大いなる自己のテンプルです。

このごろは、すべての人の家がテンプルとなりました。最近聞いたのですが、ムンバイにある シッディヴィナーヤク・テンプルも外部から遮断されたにもかかわらず、内側ではプージャーがささげられ続けていること、そして、それがインターネット上でライブ配信されているとのことでした。そこで私は、シッディヴィナーヤク・テンプルでプージャーが行われている動画を大いに楽しみました。シュリー・ガネーシャ・ナマハ。

インドは私の国です。インド人は、どこへ行こうと、その心はインド人のままです。体はどこにあらうと、心はインドのものです。

私は考えていたのですが、この世界を旅立つ時——そして天国に行き、あるいは願わくば天国へ行って——恐らく私たちは神に、「インド出身です」と言うでしょう。インドの特色はとても強いのです。インドでは、人々はカダック・チャイ——濃いお茶——を好むと言います。同様に、インドの特色もカダックです。とても強いのです。ですから神に、私たちはインドに属している、インドから来たと言え、神はそれを聞いて嬉しく思うでしょう。

なぜなら、神をさまざまな名前で歌うのはインドだけだからです。インドにおいてだけ、私たちは神をさまざまな名前で賛美します。インドではあらゆる方法で神を賛美

できると理解し、神は喜ばれるのです。聖人カビールが言うように、「熱狂して、あるいは、怠惰にラーマの名前を繰り返すにしろ、とにかくラーマの名前を繰り返さない」

なぜなら神は聞いているからです。私たちは気づかず、注意もしていないかもしれませんが、神は気づいているし、注意もしています。私たちは嬉しくないかもしれませんが、神は嬉しく思っています。私たちは悲しんでいるかもしれませんが、神はいつでも無上の喜びの中にいます。

ですから、「プレーマ ムディタ マナ セー カホー、ラーマ、ラーマ、ラーマ」——「喜びに満ちた心で、愛があふれる心で、ラーマの名前を歌いなさい」。たとえ心は悲しみを感じていても、それでも「ラーマ、ラーマ、ラーマ」と歌いなさい。いつもラーマ神の名前のジャパを続けなさい。



このごろは、内側で湧き起こっているものに目を向ける時間がたくさんあるのではないですか。インドでのロックダウンについて知った時、私は多くの人に「うまくいっていない人と一緒に家にいなければならない人は、皆どうやって過ごしているのですか」と聞きました。以前は、誰かとうまくいっていなければ、あるいは、その人たちとけんか中であれば、ただどこかに出て行くことができました。子どもがすねている時に、親に言うようなものです。「分かった!」と、彼らは言うでしょう。「出ていくからね! 親なんていないんだから」

ですから、子どもたちに聞きましょう——近ごろはどうしていますか。お母さんやお父さんとけんかして、けれども、かつてあなたが家を出て行くために使っていた扉はすべて閉まっています。あなたたちはどのように感じていますか。

インドでは、「不安はマトゥ・ロー。心配するな」というのを忘れないでください。ですから、どんな苦しいことに出合おうとも、どんな試練や苦難に直面しようとも、私たちはいつも「不安はマトゥ・ロー。心配するな」と言うことができます。

なぜなら、張り詰めている時、心配している時、愛が「そこに私の場所がありますか」と聞くからです。体が不安で満たされている時、どこに愛の場所がありますか。どこに喜びの、幸せの、平和の場所がありますか。そうでしょう?



毎日、皆のことを考えていますが、今朝は特に焦点を当てて皆さんのことを考えていました。既に述べたように、体はどこにあらうと、心——心はインド人です。インドは私の国です。

今日皆さんに何を伝えるべきかを聞くために、バデ・バーバに祈っていました。ひたすらそのことについて考えていました。すべての人がとても苦しみ、とても悲しんでいます。皆さんはインドでそれを感じていて、世界中でも人々は同じように感じています。

近ごろは、悲しみのない場所などありません。規則に従う者は苦しみ、規則に従わない者も悲しんでいます。

インドで撮影されたある動画を最近見ましたが、その動画の中で、ある男性が自転車に乗っていたら、3人の警察官が彼を追い掛け、殴打し始めました。これを見た時、私の心は沈みました。私の心にとって打撃でした。

静かに数分間座り、私はこの男性に愛を送りました。彼は間違いを犯したかもしれない、けれども、もしかしたら彼は道路には誰もいないだろう、だから何も悪いことは起こらないだろうと考えたのかもしれない。彼は警察官がいることを知りませんでした。警察官たちは彼を大変ひどく殴りました。

その一方で、規則に従う人たちもいます。やるべき仕事や課題を見つけて、それをするのは良いことだし役に立つと考えているから、家にいるのは嬉しいと私に教えてくれた人たちもいました。それでも、家を拘置所のように感じ、それで嬉しくないと思っている人たちもいます。

そして、家さえない人たちもいるのです。彼らはどのような状態に置かれているのでしょうか。

これが、世界中が不幸せであると私が言う理由です。ついこの前のことですが、オーストラリアで幾つもの火災が猛威を振るいました。それらは苦悩に満ちてのたうち回りました——そして私がそれらを「苦悩に満ちて」と言うのは、火はこれを引き起こしたかったわけではないからです。しかしながら、それは起こりました。15億もの生き物が、それらの火災で死んだと聞きました。このニュースを読んだ時、私は、「私たちはどのようにそれらの魂に平安をもたらすことができるだろうか。生き物たちはどんなふう生きるのを諦めたことか！」と思いました。

それが、生き物たちの状態でした、そして今、それは人類の状態になっています。ですから私たちは皆、一緒にこの状態の中にいます。

誰も王ではなく、誰も物乞いではありません。

誰も知的なのではなく、誰も愚かではありません。

すべての人が同じ状況の中にいます。

誰もが影響を受けています。

今朝、私がバデ・バーバに、「私は何を言うべきでしょうか」と尋ねた時、彼はこの詩を私に与えました。

こここのところ、人々が忙殺される
仕事は少なくなり、
行動や活動も少なくなっている。
しかし彼らのマインドの中には、動揺がある。
彼らのマインドの中には、苦悩がある。
それでも、人はそんなに弱々しいものではない。
彼らは不活発ではない。
彼らは瞑想に没頭している。
瞑想の中に、真の陶醉がある。

聞きなさい、愛する者よ。
太陽は長い一日の仕事が終わった後に沈むかもしれない。
しかし、そこに幸せあるいは悲しみがあろうとも、
喜びあるいは苦しみがあろうとも、
大いなる自己の光は永遠に輝き続けるだろう。

「アートマー・キー・プラシヤンティ」を思い出しなさい。大いなる自己の平安。

そこに愛があろうと怒りがあろうと、「アートマー・キー・プラシヤンティ」を思い出しなさい。



今日が4月1日であると知っていますか。4月1日には、全世界がエイプリルフールの日を祝います！ 今朝私は、「あらまあ！ 今日エイプリルフール。もしかしたら皆は、これはいたずらで、グルマーイとのサツツァングは実際にはないだろう、と考えるかもしれない」と思いました。あなたはそうのように考えなかったと望んでいます。でも、あなたは分かっています。あなたが表現するのは愛だけですから、そんなふうに考えたりしないでしょ。う。そうではありませんか。そうです！

今日はエイプリルフールの日です。この言葉、「フル（愚か者）」について見てみましょう。インドでは、あなたが何を持っていても、どんな言葉を使っても、どんなにあらゆるものがあなたの前にあっても——それについて語られてきたことがたくさんあるでしょう。「愚か者」についても、そうです。教典は、愚か者について多く語っています。神の名前を繰り返さない者は愚か者であると言っています。年長者の言うことに耳を傾けない者は愚か者であると言っています。大いなる自己の光は常に存在するのに、そのダルシャンを持たない者もまた、愚か者であると言っています。

それを読んだ時、あなたは心の中で危機を感じるに違いありません——でも、どうしたらいいのでしょうか。

ヒンディー語では、「愚か者」を意味する言葉はムールクです。それ以外に、ムーダという言葉もあります。英語では、似た音の言葉に、「ムード（気分）」があります。でも、私が言いたいのはそれではありません。インドの人々は、「ムード テーク ハイ、ナ？」「あなたはいい気分ですか」と言います。あるいは、人々は、「ムード ナヒー ハイ」——何かをしたい気分ではない時に、こう言います。いいえ、そのムードではありません。私は、ムーダ、「愚か者」という言葉について言っています。

この言葉、ムーダについて考えた時にすぐ、アーディ・シャンカラチャーリヤの賛歌、「バジャ・ゴーヴィンダム」が私の頭の中でハミングし始めました。

サムプラプター サンニヒター カーレー ナヒ ナヒ ラクサティ ドウクルンカラネー

バジャ ゴーヴィンダム バジャ ゴーヴィンダム ゴーヴィンダム バジャ
ムーダマター

アーディ・シャンカラチャーリヤは言います。「おお、誤った思い込みに束縛されたあなたよ、ゴーヴィンダの名前を歌いなさい。ゴーヴィンダの名前を繰り返さなさい。なぜなら死の時には、書物で得た丸暗記の知識ではなく、神の名前を繰り返すことがあなたを守るのだから」

シャンカラーチャーリャはさらに続けて、サツツァングを通してあなたは無執着を達成することができると言っています。無執着を通して、あなたは識別力を達成します。識別力を通して、あなたは自身の本質についての確固とした知識を達成します。そしてあなたの本質の知識を通して、あなたは解放を達成します。あなたは大きいなる自己の知識を達成するのです。

アートマー・キー・プラシヤンティ。

今、エイプリルフールの日も吉兆になり得ると、あなたは分かりますね——なぜなら、「バジャ・ゴーヴィンダム」を歌うことを思い出させるからです。インドには、この類いのジュガードゥ——才覚——があります。私たちはどんなことも吉兆にすることができます！ ですから、最近起こっていることにさえ、私たちは吉兆を作り出し、吉兆を広げることができるのです。

『プレイ・オブ・コンシャスネス』の中で、バーバ・ムクターナンダは次のように書いています。

これは、私がシュリー・グルデーヴにささげる祈りである！
人々の人生がこの世の天国であるように。
「私と私のもの」という思いが姿を消すように、
そして、チティの知識が心に湧き上がるように。
すべてのものが、常に愛と平穏をもって、あなたを崇拝するように、
そして、呼吸が常にソーハムのマントラを繰り返すように。

あなたをすべての中に、大きいなる自己として
あがめることができるよう、私を祝福してください。
人種や宗教や言葉の区別を捨て、
常に清らかなマインドでいられるように。
グルナートゥよ、偉大なものにも小さなものにも、苦悩と貧困の中にも、
高貴なものにも愚かなものにも、同一にあなたをこの目に見させてください。
シンプルなマインドと謙虚な気持ち、そして寛大な心を与えてください。
人々に真の知識を授け得る者でいられるように。

グルデーヴよ、この願いを聞き入れてください。
心の神殿で、あなたを常に瞑想できるように。
おお、すべてのものの大きいなる自己よ！ この普遍の光を永遠に愛せるように。
おお、グルよ、敬愛を持ち続けられるように。
知識とヨーガと瞑想で、私の意識が動かぬように。

常に、シッダ・ヴィーデヤの崇拝者でいるように。
マインドがチトウシャクティと一体になるように。
常にあなたの中にラーマ、クリシュナ、シヴァ、シャクティを見られるように。
シッダ・ヨーガの生き続けるガネーシュプリーに住めるように。
私を国や言葉、階級や人種の区別から解放し、
一様性のビジョンを与えてください。
私の心を、ニッテャーナンダの波動で満たしてください。
私のマインドを、ニッテャーナンダのマインドそのものにしてください。

すべての人が、単純さと真理、勇気、
豪胆さ、分別と輝きを持つように。
この世が、望みをかなえる木や牛で満たされる
喜びの庭園となるように。
シッダを学ぶ者が、感覚を制御でき
クリヤ・ヨーガを楽しむことができるように。
おお、グルナートゥよ！ 人々の心の神殿に、
いつもあなたを見ることができ、いつもあなたに満たされるように。

この体に生命が通う限り、私の義務を果たし続けられるように、
そして、あなたを常に思い起こしていただけるように。
グルナートゥよ、私の人生を働くことで満たしてください。
常にあなたを瞑想できるように。

おお、グルデーヴよ！ 少なくともこれだけはかなえてください。
あなたと永遠に一体でいられるように。
東西南北
どちらを向いても
あなたを常に見ることができるように。

あなたは純粹で目にすることができない、パラシヴァだ。
あなたは、まさにサッチダーナンダの具現である。
宇宙はあなたの中にあり、あなたは宇宙の中にある。
あなたの中に違いはなく、あなたは超越されざる唯一無比の存在だ。

ムクターナンダは言う、シュリー・グルナートゥよ！
シッダの教えが花開くように。
私たちの瞑想がダイナミックであるように。
ブルーパールの中に、永遠の休息を得られるように。

どこにあっても、常に喜びにあふれるように、
そして、あなたが私の心に永遠に住むように。
ムクターナンダは言う、おお、グルナートゥよ！
私たちの人生が、宇宙なる意識の戯れであるように！

バーバ・ジがこの祈りを書いた時、世界はずいぶんと異なっていました。たとえそうでも、今日私たちがこの祈りを読む時、バーバ・ジは現在のこの瞬間のために書いたのではないかと感じます。真理は不滅です。私たちが昔の教典の中に書かれたことを学ぶ時、賢人たちは、今の私たちがどう暮らしているかを知っていたかのようです。偉大な存在たち、賢明な存在たちには、私たちが今経験していることを見抜く先見の明があるのです！ 真理は不滅です。

バーバ・ジは何と美しく書いているのでしょうか。「どこにあっても、常に喜びにあふれるように」。最近、私たちは外側の世界を歩き回ることはできません。でもシッダ・ヨーガの道では、私たちは内面を育んできました。私たちは内側の世界を歩き回ることができます。

そしてこの試練の時に、私たちの内なる世界が安全な避難所であることを確実にするために、一層努力することが大切です。幸せな人々は、彼らの幸せを分かち合わなくてはなりません。不幸せな人々は、家族や友人など親身になって聞いてくれる人と話して、自分の悲しみについて知ってもらうべきです。すると、何かを持っている人は、持っていない人に与えることができます。そして、何も持っていない人は、何かを手に入れた時に今度は他の人に与えるという意図を持って、受け取ることができます。

人類への奉仕は神への奉仕であると私たちが言う時、それは、たった一人の人が、あるいは、たった一つのグループが、すべての人のためにすべてを行うということの意味してはいません。意思のある人が与えます。意思を持たない人は寛大な心と利他的な性質の人を見つけて、ためらうことなく自分の窮乏を伝えます。そして彼らが——当初は困窮していた人々が——より大きな資力を得た時、今度は彼らが他の人に分かち合うでしょう。このようにして、皆が心の中に寛大さを体験する効果を得ます。そしてこの寛大さの体験は、心の健康に良いのです。

毎年6月にシッダ・ヨーガの道のウェブサイトでは、サッドグナ・ヴァイバヴァ、神聖な美德について読み、学ぶ機会があります。あなたたちの多くがこれらの美德を書き記し、また、あなたたちの多くがそれらを暗記までしていると聞きました。ですから、あなたは内側にも日記の中にも、サッドグナ・ヴァイバヴァを持っています。

ですから、このロックダウンが行われている間、あなたは一度に一つずつのサッドグナを学び、それを吸収し、他の人に分かち合うことができます。

これが私の望みです。

これが私の要請です。

これを行うことに同意しますよね？



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。